

# 強者の戦略

東大日本史のみかた 39 [問題編]

第 39 回となる今回は 2019 年の東大日本史の第 3 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

## 【2019 年度 東京大学 文科前期 第 3 問】

次の (1)～(4) の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 17 世紀を通じて、日本の最大の輸入品は中国産の生糸であった。ほかに、東南アジア産の砂糖や、朝鮮人参などの薬種も多く輸入された。それらの対価として、初めは銀が、やがて金や銅が支払われた。
- (2) 江戸幕府は 1685 年に、長崎における生糸などの輸入額を制限した。1712 年には京都の織屋に日本産の生糸も使用するよう命じ、翌年には諸国に養蚕や製糸を奨励する触れを出した。
- (3) 1720 年には、対馬藩に朝鮮人参を取り寄せるよう命じ、栽培を試みた。その後、試作に成功すると、1738 年には「江戸の御用達町人に人参の種を販売させるので、誰でも希望するものは買うように」という触れを出した。
- (4) 1727 年に幕府は、薩摩藩士を呼び出し、その教えに従って、サトウキビの栽培を試みた。その後も引き続き、製糖の方法を調査・研究した。

### 設 問

- A 幕府が(2)～(4)のような政策をとった背景や意図として、貿易との関連では、どのようなことが考えられるか。2行以内で述べなさい。
- B そうした政策をとった背景として、国内の消費生活において、どのような動きがあったと考えられるか。それぞれの産物の用途に留意して、3行以内で述べなさい。